

第4章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに 調査、予測及び評価の手法

第4章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

4 - 1 環境影響評価の項目の選定

(1)環境影響評価の項目

本対象事業に係る環境影響評価の項目は、北九州市環境影響評価技術指針に掲げられた環境影響評価の標準項目をもとに、対象事業の特性と対象事業実施区域及びその周囲の自然的、社会的状況を勘案して表4 - 1のとおり選定した。

表4 - 1 環境影響評価項目の選定

環境要素の区分				環境要因の区分		工事の実施		存在及び供用	
				建設工事の実施	工事中の走行	施設の使用	ごみ収集車の走行		
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	大気環境	大気質	二酸化硫黄						
			二酸化窒素						
			浮遊粒子状物質						
			粉じん等						
			有害物質						
		騒音	騒音						
		振動	振動						
		悪臭	悪臭						
	水環境	水質	水の汚れ、富栄養化						
			水の濁り						
水底の底質		有害物質							
土壌環境・その他の環境	地下水	地下水							
	地形・地質	重要な地形・地質							
		地盤沈下							
土壌	土壌汚染								
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	植物	重要な種及び重要な群落							
	動物	重要な種及び注目すべき生息地							
	生態系	地域を特徴づける生態系							
人と自然との豊かな触れ合いの確保	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観							
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場							
環境への負荷の量の程度	廃棄物等	産業廃棄物							
		残土							
	温室効果ガス等	二酸化炭素							

注) 環境要因が環境要素に影響を及ぼすと考えられるもののうち、印は選定した項目、印は選定しなかった項目を示す。

(2)選定の理由

環境影響評価の項目として選定する理由及び選定しない理由は、表4-2のとおりである。

表4-2(1) 環境影響評価項目の選定並びにその理由(工事の実施)

環境要素		環境要因	選定	選定する理由及び選定しない理由
大気環境	大気質	二酸化窒素	工事用車両の走行	工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素により、沿道環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
		浮遊粒子状物質	工事用車両の走行	工事用車両の走行に伴い発生する浮遊粒子状物質により、沿道環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
		粉じん等	建設工事の実施	建設工事の実施に伴い発生する粉じんにより、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
	騒音	建設工事の実施	建設工事の実施に伴い発生する騒音により、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。	
		工事用車両の走行	工事用車両の走行に伴い発生する騒音により、沿道環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。	
	振動	建設工事の実施	建設工事の実施に伴い発生する振動により、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。	
		工事用車両の走行	工事用車両の走行に伴い発生する振動により、沿道環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。	
	水環境	水質	水の濁り	建設工事の実施に伴う排水は、適正な処理(沈澱槽により処理)を行った後排出するため選定しない。
土壌環境	土壌	土壌汚染	建設工事の実施に伴い発生する土壌が汚染されていないかを確認するため選定する。	
廃棄物等	産業廃棄物	建設工事の実施	建設工事の実施に伴い、建設廃材や残土が発生するため選定する。	
	残土	建設工事の実施	建設工事の実施に伴い、残土が発生するため選定する。	

注) 環境要因が環境要素に影響を及ぼすと考えられるもののうち、印は選定した項目、印は選定しなかった項目を示す。

表 4 - 2 (2) 環境影響評価項目の選定並びにその理由（存在及び供用）

環境要素		環境要因	選定	選定する理由及び選定しない理由
大気環境	大気質	二酸化硫黄	施設の存在・稼働	施設の稼働（煙突排ガス）に伴い発生する二酸化硫黄により、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
		二酸化窒素	施設の存在・稼働	施設の稼働（煙突排ガス）に伴い発生する二酸化窒素により、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
			ごみ収集車両の走行	ごみ収集車両の走行に伴い発生する二酸化窒素により、沿道環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
		浮遊粒子状物質	施設の存在・稼働	施設の稼働（煙突排ガス）に伴い発生する浮遊粒子状物質により、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
			ごみ収集車両の走行	ごみ収集車両の走行に伴い発生する浮遊粒子状物質により、沿道環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
		有害物質	施設の存在・稼働	施設の稼働（煙突排ガス）に伴い発生する有害物質（塩化水素、ダイオキシン類等）により、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
	騒音	施設の存在・稼働	施設の稼働に伴い発生する騒音により、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。	
		ごみ収集車両の走行	ごみ収集車両の走行に伴い発生する騒音により、沿道環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。	
	振動	施設の存在・稼働	施設の稼働に伴い発生する振動により、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。	
		ごみ収集車両の走行	ごみ収集車両の走行に伴い発生する振動により、沿道環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。	
悪臭	施設の存在・稼働	施設の稼働（煙突排ガス及びごみピットからの漏出臭気）に伴い発生する悪臭により、対象事業実施区域周辺環境への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。		
水環境	水質	水の汚れ、富栄養化	施設の存在・稼働	施設の稼働に伴い発生する排水はクロードシステムとして処理し、さらに生活雑排水は公共下水道に放流するため選定しない。
	水底の底質	施設の存在・稼働	施設の存在・稼働	施設の稼働に伴い発生する排水はクロードシステムとして処理し、さらに生活雑排水は公共下水道に放流するため選定しない。
	地下水	施設の存在・稼働	施設の存在・稼働	施設の稼働に伴う地下水の揚水は行わないため選定しない。

注) 環境要因が環境要素に影響を及ぼすと考えられるもののうち、 印は選定した項目、
印は選定しなかった項目を示す。

表 4 - 2 (3) 環境影響評価項目の選定並びにその理由（存在及び供用）

環境要素		環境要因	選定	選定する理由及び選定しない理由
土壌環境・その他環境	地形・地質	重要な地形・地質	施設の存在・稼働	施設の存在に伴う地形・地質の改変は行わないため選定しない。
	地盤	地盤沈下	施設の存在・稼働	施設の稼働に伴う地下水の揚水は行わないため選定しない。
	土壌	土壌汚染	施設の存在・稼働	施設の稼働（煙突排ガス）に伴い発生する有害物質（ダイオキシン類）により、対象事業実施区域周辺土壌への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。
植物	重要な種及び重要な群落	施設の存在・稼働	重要な種及び重要な群落の状況を把握するため選定する。	
動物	重要な種及び注目すべき生息地	施設の存在・稼働	重要な種及び注目すべき生息地の状況を把握するため選定する。	
生態系	地域を特徴づける生態系	施設の存在・稼働	地域を特徴づける生態系の状況を把握するため選定する。	
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	施設の存在・稼働	施設の存在に伴い、景観への影響を及ぼすおそれがあるため選定する。	
人と自然との触れ合い活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	施設の存在・稼働	施設の存在に伴い、人と自然との触れ合い活動の場の改変及び消滅はなく、さらに人と自然との触れ合い活動の場に通じる経路への影響はないため選定しない。	
廃棄物等	産業廃棄物	施設の存在・稼働	施設の稼働に伴い、焼却灰が発生するため選定する。	
温室効果ガス等	二酸化炭素	施設の存在・稼働	施設の稼働（煙突排ガス）に伴い、温室効果ガスの二酸化炭素が発生するため選定する。	

注) 環境要因が環境要素に影響を及ぼすと考えられるもののうち、印は選定した項目、印は選定しなかった項目を示す。